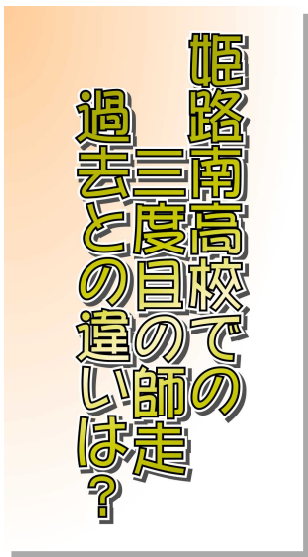


74新破天荒



令和四年度より
創刊
第9号



七十四回生の学年通信も今回を除いて残すところあと多くて四回となりました。皆さんの半数は通信を読んでいるところではないと思いますが、少しの気分転換に、いや、己の反発心をくすぐって大きなエネルギーを得てもらえると嬉しいです。

早いものです。実際は入学して三十二ヶ月を経過しました。もちろん色々なことがありました。かけがえない思い出、許せない悔しさ、それを打ち破り達成感に繋がった力強さなどなどの経験が、「本当に充実した三年だった」と言う言葉になると良いですね。

残念ながら「迷い」「悩み」「不安」に苛まれていた人は、あと二ヶ月の残された時間をがむしゃらにもがいてもがいて、発する言葉さえ「時間の無駄」と感じるような、そんな時間を過ごしてください。自分の未来の為に、自分を成長させる為に、自分が次のステージでしっかり好スタートを切っていく

為に、広い景色を眺め、良い助走に繋がる努力をし、経験を積み重ねてくれることを望むばかりです。

「こういつた想いは、ともすれば過剰な



で、おそらく皆さんの学校生活において、「不快な思いや「押しつけられた」空間となり、「思い込み」の安売りには「つきあっていられない」感情が支配していたかもしれません。あと僅か。上手に付き合ってください。私が言うのも 何ですが。

とは言いつつ、先日返却した、あるいはこの先に返却されるであろう、皆さんが入学して書いた

「夢」

はいま、その「続き」の道の途上にいるのか、「違う道」だが歩みの途上にいるのか、夢「破れ」後悔の念を持ってしまったのか。

「闘い」に疲れている人がいれば、少しだけ高校時代の「初心」に返り、自分の「可能性」を大切に、再度「挑戦」を始めて下さい。

難しい時代の中ですが、生きていく上での永遠のテーマである

「伝える」

「伝わる」

ための手法を、どうか身につけていってください。

その意味では私は、この三年間は皆さんの

反面教師

でいられたのかと思います。

いよいよ、七十四回生の皆さんの姫路南高等学校での生活も、実質は一ヶ月弱です。

その一ヶ月に、人生の大きな選択をしなければならぬ生徒の皆さんや、大きな闘いの中で「もがき、挑戦する」生徒の皆さん、一足先に社会へ飛び立つポジションで自分に時間を与えられた生徒の皆さんと、多様な集団になっている七十四回生ですが、平等に未来への時間が与えられています。

どうか、自分を安売りせずに将来の糧となる貴重な時間を過ごして頂きたいと思えます。

このような時期に、このタイミングで

不謹慎ですが

最近、気になっているテレビ番組を紹介します。

- ・ NHKドラマ 「宙わたる教室」
- ・ NHKドキュメント 「新プロジェクトX」

「プロジェクトX」

- 二つの大震災に関わるプロジェクト番組
- 一つ目の大震災とともに起こった

地下鉄サリン事件での人間模様

などです。良ければ、琴線に触れてみてください。

さて、姫路南高校での最後の考査に、初心を振り返ったうえで取り組みとなった結果が見えることを期待したいと思います。その先に、自分の手に入れたい進路を「掴む」人が増えることを「知る」ことになるのは、もう少し先になるとは思いますが。

十二月の予定

十一月

二十八〜二十四日(木)〜(水)

二学期期末考査

五日(木)〜

午前中授業③④⑤⑥

九日(月)

LHR(4限)

十一日(水)

教育相談

十七日(火)

成績会議

十八日(水)〜

三者面談(〜二十七日)

二十三日(月)

大掃除・ワックス

二十四日(火)

終業式 表彰伝達

二十五〜二十六日(水)〜(木)

共通テスト直前演習

二十七日(金)

日本社会では年末最後の公式な仕事を

二十八日(土)〜

一月五日(日)までは学校閉庁日

二十九日(水)

教育相談

三十一日(金)

大掃除・ワックス掛け・
学年集会・LHR

十二月二十八日(土)〜

一月五日(日)までは学校閉庁日

二十九日(水)

教育相談

三十一日(金)

大掃除・ワックス掛け・
学年集会・LHR

二十八日(土)〜

一月五日(日)までは学校閉庁日

二十九日(水)

教育相談

三十一日(金)

大掃除・ワックス掛け・
学年集会・LHR

二十八日(土)〜

一月五日(日)までは学校閉庁日

二十九日(水)

教育相談

三十一日(金)

大掃除・ワックス掛け・
学年集会・LHR

二十八日(土)〜

一月五日(日)までは学校閉庁日

二十九日(水)

教育相談

三十一日(金)

大掃除・ワックス掛け・
学年集会・LHR

一月の予定

六日(月)

仕事始め

日本社会では年始最初の公式な仕事を

仕事始め と言います。

本校では、今年度は一月六日(月)

担任の先生の予定を二学期終業式に、きちんと聞いておくこと。出張等もあります。

八日(水)

始業式 共通テスト直前注意

九日(木)

午前中授業 一、二年課題考査

十三日(月)

成人の日

十四日〜十七日(火)〜(金)

二年生修学旅行

十七日(金)

午前中授業(二年)

十八日(土)〜(日)

共通テスト 現段階では会場は未定

二十日(月)

共通テスト自己採点

二十五日(土)〜

国公立大学志望者三者面談

二十九日(水)

教育相談

三十一日(金)

大掃除・ワックス掛け・
学年集会・LHR

二十八日(土)〜

一月五日(日)までは学校閉庁日

二十九日(水)

教育相談

三十一日(金)

大掃除・ワックス掛け・
学年集会・LHR

二十八日(土)〜

一月五日(日)までは学校閉庁日

二十九日(水)

教育相談

三十一日(金)

大掃除・ワックス掛け・
学年集会・LHR

二十八日(土)〜

一月五日(日)までは学校閉庁日

二十九日(水)

教育相談

三十一日(金)

大掃除・ワックス掛け・
学年集会・LHR

人権教育講演会

十一月十五日金曜日の午後、全校生を対象に人権講演会が本講体育館で開催されました。講師は兵庫工業高等学校教諭脇川宏太先生で、「多様性について」という演題で講演されました。

主に性についての「多様性」の話でしたが、三年生を代表して四組男子の二名が講師の先生の手伝いをしました。もしかしたら、本人達には多少不快感を与えてしまったかもしれませんが、自分に与えられたもの、持っているものは、すべては自分の個性であり武器でもあることを、大らかな気持ちで持つてもらえたら嬉しいのです。

私自身、色んな場面で「見た目・雰囲気」では結構嫌な想いをしてきました。見た目だけでなく「言葉の発信・表情」にも問題は多分あるのでしようね。ただ、時を経て「思ったより」とか「印象と違う」と言われることもあり、その点では、相手の方にも「多様性」を感じて、粘り強く接することがもう少しできていたらなあ・・・とも感じた講演会でもありました。

まずは学校を代表して協力してくれた男子二人。どうもありがとう。加えて、大変な感想文の課題をこの忙しい時期に課せられた七十四回生の皆さん。真摯な「感想」は、講師の先生に十二分な形にできたのではないかと思います。

「考える」力を、是非この先に活かして行ってほしいものです。

三年生は、二月は自由登校となります。進路確定を目指して頑張る者は、認められる限り(月曜から金曜の平日)、図書室やHR教室(ただしHR教室はエアコン等の使用はできません)を学習等に利用することはできます。HR教室は、場合によっては使用不可となる可能性があります。連絡をよく確認して大いに利用して下さい。

学校に来る必要がない人は保護者の管理下、安心安全な生活を心がけてください。時々、この時期に交通事故に巻き込まれたり、病気にかかり、残念ながら卒業式に参加できないというケースが稀に見受けられます。

そういったことにならないよう、健全で規則正しい生活を心がけて、願わくは自分を「高める」時間にしてもらいたい者です。

なお本校は、進路先確定者については、この時期から、アルバイト・自動車教習所入所が認められています。ただし、アルバイトについては認められない範疇もあります。

詳細は二学期末学年集会以て、連絡・説明を行います。それまでは、自分磨きの為に「学び」の時間を大切にしてください。

これが姫路南高等学校でのルールなので、保護者も含めましてご理解ください。結果的に、自分を傷つけたり、自分の不利になるような話や出来事にならないように、姫路南高校生としての生活を全うして下さいね。

芸術鑑賞会

十一月二十五日月曜日には、姫路市文化コンベンションセンター（アクリエ姫路）にて、令和六年度芸術鑑賞会が行われました。

昨年に引き続き、来年度より発展的に統合する網干高等学校、家島高等学校とともに、同じ時間を同じ空間で過ごしました。

今年『狂言』という、普段なかなか触れることはない芸術でしたが、約一時間半三十分という時間はあつという間に過ぎ、どの分野でも「本物は本物」、演者の迫力に、未知の世界観を感じることもできたのではないのでしょうか。

生徒達も、自分たちの『未知なる』可能性という琴線にも触れたなら、今努力していることが将来への途中経過に活かせると思います。

期末考査の僅か三日前ではあつたけれども、貴重な『刺激』となることを祈ります。

今月の ……の 勧め

一月	「無駄」
五月	「諦めない」
六月	「捨てる」
七月	「チャレンジ」
一学期末	「さかのぼる」
九月	「テレビ」
十月	「大空間」
十一月	「無」
十二月	「こだわり」
二学期末	「信念」
一月	「探る」
二月	「自制する」
三月	「勇気を探す」
一年最終	
二	年
四月	「悩むこと」
四月 2	「本気でぶつかること」
五月	「この世界の片隅を大切に」
六月	「主体性」
七月	「客観性」
一学期末	「ルーティーン」
九月	「スマホとの向き合い方」
十月	「詩に触れる」
十一月	「破壊する」
十二月	「想いを再生する」
2学期末	「夢を目に触れるようにする」
一月	「アナログ」
二月	「きっかけ」
三月	「一度諦める」
二年最終	「失敗の感情で終わらない」

二	年
四月	「思うだけじゃ駄目」
五月	「目先の失敗に気付く」
六月	「いつか報われる」
七月	「いつもと違う努力」
一学期末	「してやりたい」
九月	「ごめんなき」
十月	「プリテンド pretend」
十一月	「アピール」
十二月	「自己満足」

「思う」だけ

の自己満足ではなく、

「やり抜いた」

「自己満足」は別物で、自分を信じることに繋がるものです。

すぐ推薦入試が迫っている、あるいは真っ只中にいる人は、自分が「やってきた」自己満足を探して試験に臨んでみよう。

共通テストがまず一次予選の人は、あと一ヶ月半、何か小さな「自己満足」を手にしてみよう。

すでに「自分の想い」を手にしたものは、新たな目標の設定と、それに向かって新たな「自己満足」を得る時間を過ごしてもらいたいと思います。

七十四回生へ

こだわり

まだまだ伸びる

悩みも涙も伸びる要素だ

たくさん悩もう

自分を信じていることができるまで

以外の何ものでもありませんが、

「自己満足」

ただ、信じて「動いた」こと。解答は切り貼りではなく「自らの解答を」と、忘れず配布し続ける。完了を迎える今は

こんな涙も

♪
涙の数だけ 強くなれるよ
アスファルトに咲く 花のように
見るものすべてに 怯えないで
明日は来るよ きみのために

♪
以前にも紹介したことがあるかもしれませんが、
知っている人には

懐かしい

知らない人には

新しい

しかし、いま心に響く唄です。私たちが耳にしたのは一九九五年初夏。この年は、信念が明けて早々に「阪神淡路大震災」が発生しました。

兵庫県民である私たちにとって決して忘れることができない、語り継がなければいけない自然災害があった年です。

三月には、東京で恐ろしいテロが発生しました。今なお、その後遺症に悩まされながら生活している人もあります。

何を信じるかは人それぞれですが、意の異なる者を排除することが間違いであることを、頭の中では分かっている行動が矛盾することは、現代社会において、身近な社会（つい先日のどこかの選挙）を見ても、生きていく限りは永遠のテーマとせざるを得ないのでしよう。

話が横に逸れましたが、実はこの歌詞、このメロディは、私たちが困難に立ち向かうことが起こったときに、決まって耳にするものです。

そして、私たちに「勇氣」を与えて、「行動力」を授けてくれる

事実

があります。

ただ、時代は

「失敗を経験するべき時期」

に失敗させることを許さなくなってきました。

結果、何が起きているか？

失敗という概念はない

失敗は悪

失敗体験は先送りにする

そして、小さいうちから

「言えば分かるよね」

と、大人が手を離す時期を早める。

聞こえは良いが、本当に「言えば分かる」だけの経験をさせてあげているのだろうか。

「教える」がおこがましいのであれば、「伝える」と考えれば、先に生まれて経験した者の責務として、次の世代に引き継ぐために、子どもたちの経験を「見守る」と考えることが、成功だけでなく、失敗から

学ぶ体験をさせてやることができると思います。

「泣いても」良いのではないですか。涙の数だけ強くなっていく感情が、未知の成功に向かって必ず進んでいく、日本の「素晴らしい文化」を引き継ぎ効果的な失敗体験も、達成感のある成功体験も手にするようになると思います。

いつの時代も、キーワードは

「乗り越える」

それには

「動即感」

ぞうずれば

「失敗？挑戦中？」

気付けば

「こだわることでもないか！」

「気付きも成功」

となりますね。

♪
悲しみや苦しみの先に それぞれの光がある
さあ行こう 振り返らず走り出せばいい
希望に満ちた空へ

今日の勇氣

工学部を進学希望していた生徒で、第一ステップがスムーズに叶わず、高松予備校で一年過ごした後、鳥取大学に進学した生徒から、「年末会えませんか」メールが来しました。

「話す」のがとても苦手な生徒でしたが、大学の学びの中教育に目覚めたようで、今春に上越教育大学院専門職学位課程教育実践高度化専攻なる大学院進学を果たしたようです。

「教育かあ」

環境は人を育てます。同窓会の案内と言いながら、何気に「初めてのお使い」ならぬ「初めての論文」を添えてくれました。

「彼」よりもむしろ「弟」の方が高校生活三年間の付き合いだったのですが、高校卒業後に部活動を何度か訪ねてくれるうち、縁を持たせてもらえることになりました。

いろんな「自分の道」があります。ただ、その道は、自分の強い意志があつてこそ。

自分に強くあろう

姫路南高等学校での残された月は、三ヶ月となりました。